

医心 伝心

医師会広報活動について

富山県医師会理事 金子 敏行

長らく月2回で発行してきました「医報とやま」ですが、この4月号から月1回の発行と変わります。

医師会の広報活動という場合、ひとつには医師会の活動や医療上の啓発したい情報を一般社会に対して広報する活動、もうひとつは会員に対する情報提供や相互発信の活動です。医師会報というのは、会員以外にも一部業界関係者の目に止まる機会もなくはないのですが、主に後者の、会員内で閉じた媒体と言えます。そして、医師会費さえ払っていただければ否応なく届けられることになっています。だからこそ、せつかく届いた会報はぜひ手に取っていただきたいものだと思っています。

勤務医を中心とした若手会員の皆さんの中には、医報が届いても手に取らない、あるいは表紙の写真とキャプション、医心伝心と三測表だけ見て捨てる、という方が少なくないと聞きます。以前の医師会関連の情報源が、他にファックスと郵便しかなかった頃にはしっかり見ていた方も、種々の情報ツールが増えた昨今では様子が変わってきているでしょう。たしかに、こちらとしても、県医師会ホームページに必要な情報はアップしていますので、そこで確認していただければ足りる、と考えています。ただ、いかにデジタル強者でも、自ら定期的にホームページをチェックする会員はまずいないと思いますので、見落とさないでほしい情報については会員メーリングリストである「たてやま通信」そして昨年から「富山県医師会

公式LINE」でも発信して注意を促すように運営しています。完全にこの方式に切り替われば、重要な情報の見落としもなくなり、情報の迅速性も圧倒的にあがることとなります。ネット環境が全くない、という会員は多分もういないのではと思いますが、未登録の方は、パソコンでもスマホでも可能ですので、まずは「たてやま通信」の登録を。医師会に電話やメールでご連絡ください。「公式LINE」については、「医報とやま」「たてやま通信」にQRコード、アカウントをのせていますので、登録をお願いします。講演会の参加登録なども、LINEから即できるようになっていますので、便利です。

一方で、「医報とやま」の存在意義を高めて皆さんに手に取ってもらえるよう、月1回発行になったからこそ、内容を充実させていきたいと思えます。理事会、委員会の報告は本来の使命なので外せませんが、会員の皆さんの近況を伝え合う読み物が増えることを願っています。編集側からの執筆依頼のほかに、気軽に寄稿や表紙の写真なども投稿いただければと思います。

一般向けの広報は、SNSの活用など模索中ですが、こちらが重要な情報だと思っても受け手が興味を持ってもらえないと結局うまくいきません。日医も会長会見の動画など随時アップしていますが、再生数は伸びていません。この現状は受け止めながら、しかしあきらめず地道に続けていくしかないと思っています。